令和７年度

事　業　計　画　書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和７年度事業計画について

当財団は、京都コンサートホール、京都市文化会館（５館）、ロームシアター京都の指定管理者として施設の運営に当たるとともに、京都市交響楽団の運営を行っております。

令和７年度は、京都コンサートホール、京都市文化会館（５館）については、指定管理者として５期目の３年度目を迎え、ロームシアター京都については、３期目（８年間）の指定管理者として後期期間の３年度目となります。

京都コンサートホールにおいては、開館３０周年を迎える年となり、海外一流オーケストラの公演等、世界水準の音楽鑑賞の機会を提供するとともに、若手アーティストの育成を目指した公演・事業など文化芸術都市・京都にふさわしい事業を展開してまいります。また、京都市が進める大規模改修については、相互に強調して取り組みを進め、ホールの魅力向上につなげます。

京都市文化会館においては、地域の文化芸術団体等とのネットワークを強化し、地域の文化芸術活動の活性化に向けた様々な活動、取組を行ってまいります。

ロームシアター京都においては、リニューアルオープンから１０周年を迎えます。世界水準のダンスカンパニーの招聘や若手演出家の育成、全国の公共劇場との歌劇の創作等、引き続き多彩な事業を実施し、劇場経営の基盤強化を図りながら、京都における舞台芸術の拠点として、文化芸術都市・京都の更なる発展に寄与してまいります。

令和８年に創立７０周年を迎える京都市交響楽団においては、京都市交響楽団ビジョンの戦略に基づき、常任指揮者として３年目を迎える沖澤のどか、ヤン・ヴィレム・デ・フリーント首席客演指揮者のもと、市民に愛されるオーケストラとして、一層発展するための取組を展開するとともに、日本を代表するオーケストラからワールドクラスのオーケストラへの飛躍を目指してまいります。

『公益目的事業』

■　京都コンサートホール

Ⅰ　主催・共催事業〔４８事業８０公演９講座〕

令和７年、京都コンサートホールは開館３０周年という大きな節目を迎えます。そこで、主催事業のテーマを「音楽と笑顔と幸せが溢れる３０年目の京都コンサートホール」とし、多彩な事業を通して、これまでの感謝の気持ちをお客様にお届けします。

開館３０周年記念事業として、１１事業を実施します。大ホールでは、京都市交響楽団やパイプオルガンをお楽しみいただけるコンサートのほか、海外オーケストラや世界的アーティスト等による公演を、アンサンブルホールムラタでは、室内楽コンサートを中心にお届けします。また、京都市内の寺社仏閣等で、京都ゆかりの音楽家たちが様々な音楽を届けるイベントも実施します。

また、育成事業及び普及事業についても引き続き実施します。

いずれの事業も老若男女問わず、どなたでもお楽しみいただける内容です。令和７年度も、多種多様な事業を通して、地域の文化振興・発展に貢献することを目指します。

１　京都市交響楽団のさらなる飛躍を促進

京都市交響楽団の音楽をより多くの方々に親しんでいただくため、令和７年度は３本の事業を実施します。京都コンサートホールと京都市交響楽団の組み合わせとしては初の試みとなる、０歳から入場できるオーケストラ・コンサートを開催します(開館３０周年記念事業)。主催事業の基幹となる「京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート」では、指揮者の沼尻竜典とチェリストの上村文乃を迎え、ブリティッシュ・プログラムを披露します。また、京都コンサートホールと京都市交響楽団が連携して行うプロジェクト・シリーズでは、当ホールのミュージックアドバイザーである広上淳一がタクトをとり、パイプオルガンを使った華やかなプログラムをお届けします（開館３０周年記念事業)。

また、アンサンブルホールムラタでは、京都市交響楽団メンバーによる様々なアンサンブルを共同制作し、個々の活動をサポートすることで、京都市交響楽団の飛躍につなげます。

２　質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供

令和７年度は、開館３０周年記念事業として、２つ（スイス・ロマンド管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団）の海外オーケストラ公演のほか、世界的アーティストによるピアノ・リサイタルを開催します。また令和７年は、平成２１年に京都賞を受賞したピエール・ブーレーズの生誕１００年の年であるため、作曲家にフィーチャーした特別な室内楽コンサートを実施します (開館３０周年記念事業)。海外アーティストによるコンサートシリーズ「北山クラシック倶楽部」については、計５公演を実施し、さらなるファン層の拡大を目指します。

３　日本有数のパイプオルガンの活用

ホール開館の翌年より継続して開催している、西日本最大級の京都コンサートホールのパイプオルガンを活用した『オムロン パイプオルガン コンサートシリーズ』を２回開催します。令和７年度は、我が国が誇る名オルガニスト 松居直美をゲストに迎え、J.S.バッハを中心とした魅力的なプログラムをお届けします。また、「世界のオルガニスト」のシリーズでは、スイス出身のオルガニスト イヴ・レヒシュタイナーを招聘し、ベルリオーズの《幻想交響曲》などといったスケールの大きな作品をご鑑賞いただきます。幅広い層のお客様にご来場いただけるよう、チケット代を低価格に抑え、選曲にも工夫を施します。

４　ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援

京都市交響楽団員や合奏指導者の指導のもと、オーケストラ活動を展開している「京都市ジュニアオーケストラ」は、令和７年で創立２０周年を迎えます。これまで京都市ジュニアオーケストラの指導に携わってくださった指揮者の広上淳一・大友直人・下野竜也の３名と共に創立２０周年記念コンサートを実施するほか（開館３０周年記念事業）、京都市文化会館で行う「ミュージック・サマー・コンサート」を開催します。また、令和６年に京都市ジュニアオーケストラとして初めて取り組んだクラウドファンディングの成功を受け、令和８年３月に指揮者の広上淳一や石川県ジュニアオーケストラと一緒に、能登半島地震で被害にあわれた方々に向けて音楽を届けるコンサートを石川県で実施します。「思いやりの心の先にあるオーケストラ」をモットーに、青少年のオーケストラ活動の支援と心豊かになる環境づくりに努めてまいります。

また、関西の音楽大学・芸術大学８校の学生が、京都コンサートホールに一堂に会する『関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール』では、シリーズ開始以来はじめて海外指揮者を招聘し、オーケストラ作品の名曲２曲に取り組みます。この事業では、普段交流することの少ない各大学の学生たちが、日頃の練習成果を相互に発表しあうとともに、各大学間における情報交換・ネットワークの拡大・音楽教育の向上などを目指します。

５　子どもや青少年の創造性を育む事業

誰でもクラシック音楽を気軽に楽しむことができる『KCH的クラシック音楽のススメ』では、日本を代表する金管楽器奏者８名が集結する、特別な金管アンサンブルコンサートを開催します（開館３０周年記念事業）。吹奏楽をたしなむ中高生にとっては身近な存在である、作曲家の酒井格が本公演をプロデュースし、金管アンサンブルの魅力を幅広いファン層に向けてお届けします。

京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join（ジョイン） us（ナス）！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』では、「京都コンサートホール第３期登録アーティスト」２名が令和６年度に引き続きアウトリーチ活動（総合支援学校や社会福祉施設等への訪問等）に取り組むとともに、最終年度リサイタルを開催します。出張演奏やコンサートを介して地域

の皆様と文化的交流を図りながら未来の聴衆を育てると同時に、若手音楽家の音楽活動をサポートします。

また、幼児からオルガンに親しめる『ポジティフオルガン体験講座』では、オルガニストを講師として招き、ホール独自の鑑賞プログラムを提供します。子どもたちにとっては初めての体験となる「クラシック音楽との出会い」が印象に残るものとなるよう、様々な音楽体験を重ねてもらいます。

６　地域の活性化と市民参加型演奏会の開催

京都コンサートホールでは、幅広い層のお客様にご来場いただけるようなホール独自の事業を企画し、ホールやホール周辺の賑わい創出に取り組んでいます。

開館３０周年記念事業として企画した「Kyoto Music Caravan 2025」では、京都市内の寺社仏閣等（９箇所）で京都ゆかりの音楽家らがコンサートを開催します。締めくくりのコンサートとなる「ファイナル・コンサート（バリアフリーコンサート）」では、障がいのある方でも気軽にお越しいただけるよう、会場の導線等に配慮したコンサートづくりを行っていきます。

平日１１時開演のマチネコンサートである『京都北山マチネ・シリーズ』では、国内外で活躍する若手から中堅音楽家による、トーク付きの６０分公演を全４回実施します。このコンサートシリーズでは、地域の活性化を目指して、地域の商店街と協力しランチタイムサービス等を実施します。さらに、令和７年度については特別回として、指揮者の広上淳一と沼尻竜典による、ピアノのデュオ・コンサートも開催します。

北山エリアの各施設等とともに実施する北山あおいフェスティバルと連携して開催する、一般の演奏家が熱演を繰り広げる『リレーコンサート』では、アマチュア音楽家の方々に、より本格的なステージ体験をしていただけるよう細部まで創意工夫します。北山エリアにおいて音楽を通して様々な方が交流できる場作りを行ってまいります。

１階エントランスホールで開催する、入場無料の『京都コンサートホール・ロビーコンサート』では、市民の方々がより気軽にホールに来場できる機会を提供すると共に、京都ゆかりの音楽家の活躍の場を作ります。

また、新たな企画として１階カフェにおいて、鷲田館長によるトークイベント『音とことばと。』を、全３回にわたって各回多彩なゲストを招いて開催します。

７　音楽芸術活動の支援制度

将来の音楽芸術文化を担う人材の育成に資するため、音楽芸術活動を財政面で支援する「京都コンサートホール ホール利用助成制度」を引き続き実施し、大学の交響楽団演奏会や若手音楽家による室内楽演奏会などを支援します。また、大学からのインターンシップや中学校での「生き方探究チャレンジ体験」などの受け入れを積極的に行ってまいります。

（参考）ホール利用助成制度の実績

年　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)
実　績	14事業	13事業	11事業	9事業

（参考）京都コンサートホールにおける事業・公演数の変遷

年　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)	令和7年度 (計画)
事業数	46事業	35事業	44事業	37事業	48事業
公演数	55公演	42公演	51公演	42公演	80公演
講座数	4講座	4講座	7講座	7講座	9講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和３年度はうち１３事業１３公演、令和４年度はうち１事業１公演を中止及び次年度以降延期。

Ⅱ　受託事業

１　指定管理業務

京都コンサートホールは「世界レベルの音楽芸術の殿堂」としての機能を高めるとともに、より安心・安全で利便性の高い公共ホールとしての機能を高め、更なる利用の促進を図ってまいります。

２　施設管理の目標

京都コンサートホールの利用者の増加やホール利用助成制度の利用促進、リピーターへの営業活動等により利用料金収入増を目指します。

令和７年度の施設利用料金収入額等の目標については、「コロナ以前」となる平成３０年度利用実績に利用料金改定による増収を勘案し設定しました。

目標１　利用料金収入額　（単位：千円）

区　分	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
ホール利用料金	238,166	215,182	85,429	170,928	211,856	202,873
駐車場利用料金	18,289	17,956	6,912	11,355	14,604	15,776
合　計	256,455	233,138	92,341	182,283	226,460	218,649

目標２　入場者数　（単位：名）

区　分	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入場者数	296,000	295,466	48,209	103,894	200,135	241,075

目標３　日数利用率　（単位：%）

施　設	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
大ホール	69	69	40	72	73	68
アンサンブルホールムラタ	61	61	28	55	62	62

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。

○学校関係に対し、利用案内の送付・営業訪問等を行います。

○定期的なホール利用促進会議を実施し、近隣ホールを利用する団体、関東・関西圏のプロモーターをリサーチし、ダイレクトメール等の営業活動を行うとともに、ホールをご利用いただいた皆様へ、後日、アンケートを兼ねたお礼状を送付し、リピーターの確保並びにニーズ把握に努めます。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上会議（CS会議）の推進

CS（顧客満足度向上）会議やレセプショニスト・舞台担当会議を引き続き開催し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上に努めてまいります。

CS会議では、施設で働く全部門の従事者の代表が参加し、利用ニーズの把握、要望の検証等を行い、「利用者が望むものは何か」を常に考え、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置

今年度も「理事長への手紙」を引き続き実施するとともに、施設の利用に関する要望や提案をお伺いするための「お客様ご意見箱」の設置や、施設を利用する全ての利用者（鑑賞者、主催者、来館者等）を対象にしたアンケート調査を実施し、皆様からのご意見を参考に、これまで以上のサービスの向上に努めます。

（３）京都コンサートホール鑑賞マナーの推奨

鑑賞者に演奏会をより快適な空間・環境で楽しんでいただくために、「鑑賞マナーリーフレット」の配布や客席内にて鑑賞マナー向上を啓発するパネルをレセプショニストにより掲示する等して、京都コンサートホールに来ていただいた全ての鑑賞者が満足していただけるよう、より良い環境づくりに努めてまいります。

（４）施設管理体制の更なる強化

「防火・防災訓練」を行い職員の危機管理意識の向上を図りながら、利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後、２９年が経過し、施設の老朽化を踏まえ日常の設備運用や保守点検、備品管理等を適正に実施します。また、京都市による劣化度調査の結果を踏まえた大規模改修へ向け、計画的かつ効率的な修繕や改修計画の実施に向けて取り組みます。

４　広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

（１）自主事業ラインアップの発行

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するための年間パンフレットを発行し、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員等の獲得にもつなげていきます。

（２）催物カレンダーの発行（毎月）

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のほか、京都コンサートホールで開催される最新の催物情報を掲載した「京都コンサートホール　コンサートガイド」を毎月

発行します。見やすいデザインで魅力的な情報をお届けすることで、チケットの販売促進につなげます。

（３）ホームページ等の充実

インターネットの利点を最大限に活かし、閲覧者に常に新鮮な情報を発信し、情報の充実や画面の見やすさ、より興味が沸くページづくりの工夫を行ってまいります。貸館についてのページも拡充し、利用料金シミュレーション機能を導入するなど、初めてホールを利用するお客様にも分かりやすく使いやすい、貸館利用促進に繋がるページにしてまいります。

（４）電子チケットの運用

スマートフォンやパソコンにQRコードを発行し、読み取り機にQRコードをかざすだけで入場できる電子チケットについて、取得時の手数料を安価に設定し、利用を促進します。電子チケットにすることで、窓口等でチケットを受け取る必要がなくなる等のメリットをより広く発信し、お客様の利便性の向上を図ってまいります。

（５）学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境の整備

コンサートホールの自主事業における学生割引制度、シニア割引制度、障がい者割引制度を実施し、学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境を整備します。

（６）ウィークデーパッケージプランの運用

クラシック音楽だけではなく、他のジャンルにも間口を広げ、多様な音楽ファンが集えるホールとして「京都コンサートホールウィークデーパッケージプラン」を引き続き実施し、平日のホール利用率向上に努めます。

（参考）ウィークデーパッケージプラン事業数

年　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)
事業数	5事業	9事業	5事業	3事業

（７）開館３０周年に向けた記念事業の取組

開館３０周年を機に、以下の記念事業の取組を進め京都コンサートホールをアピールします。

① ３０周年イベントの実施
② ３０周年記念グッズの制作・販売
③ ホームページに３０周年記念ページ・アーカイブページの制作
④ ３０周年記念誌の制作・販売
⑤ 館内・屋外３０周年装飾の実施

（８）外部資金の獲得

主催事業の実施にあたっては、文化庁助成、民間助成に加え、民間企業等からの協賛金の獲得に努めながら、賛助会員制度（５ 各種会員制度等の運営（２）賛助会員制度の運営参照）を活用します。また、令和６年度より新設した「京都コンサートホール スペシャルスポンサー制度」については、外部資金を獲得できるよう、積極的な企業訪問により更なる拡大を目指します。

５　各種会員制度等の運営

（１）「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組

令和７年度も引き続き「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の周知を図ります。会員を限定とした京都市交響楽団の練習風景の公開や京都コンサートホール・ロームシアター京都の両施設のバックステージツアー、会員限定コンサートなど幅広いイベントを開催するとともに、ロームシアター京都自主事業のチケット割引やグッズ割引を実施するなどの特典も付与することにより、新規会員の獲得に努めてまいります。

なお、年会費を2,000円に改定することで、郵送料の値上げ等のコスト増に対して収支構造の見直しを図ってまいります。

（参考）会員数の推移　　**（単位：名）**

会　員　制　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)
京都コンサートホール・ ロームシアター京都Club	2,531	3,003	3,486	3,729

（２）賛助会員制度の運営

京都コンサートホールならびにロームシアター京都の主催事業の一層の充実のため、年間を通じた支援を受けるべく、賛助会員（サポーター・パートナー会員）制度を設けています。令和７年度は更なる会員制度の充実を図るため、これまでの税制上の優遇措置のあるコースに加えて、自主事業のチケット割引等の特典のあるコースとロームシアター京都限定で２９歳以下の方向けのコースを新設いたします。また、引き続き情報誌の送付、チケットの先行予約、会員向けイベントなどの特典をご用意し、新規会員の獲得と継続してご支援いただけるよう努めます。

（参考）会員数と寄付金額の推移

会　員　区　分	令和4年度 実績		令和5年度 実績		令和6年度 (令和7年2月末現在)	
スペシャルサポーター（法人）	2件	100万円	1件	50万円	1件	50万円
サ　ポ　ー　タ　ー（法人）	17件	180万円	20件	210万円	23件	199万円
スペシャルパートナー（個人）	16件	103万円	23件	105万円	26件	129万円
パ　ー　ト　ナ　ー（個人）	50件	100万円	45件	90万円	35件	64万円
少　　額　　寄　　付	－	－	1件	1万円	－	－
合　計	85件	483万円	90件	456万円	85件	442万円

６　施設運営の充実に向けた取組

京都コンサートホールの中長期的なホール運営や事業について助言をいただくことを目的として、文化芸術分野に加え、広報や経営、教育、行政、観光などの専門家による外部委員で構成した「京都コンサートホール運営協議会」を引き続き開催してまいります。

■　地域文化会館
（東部文化会館、呉竹文化センター、西文化会館ウエスティ、北文化会館、右京ふれあい文化会館）

Ⅰ　主催事業〔全４５事業５７公演１０講座〕

地域文化会館が地域の文化芸術の活動拠点として、平成２３年度から取り組んできた「地域文化芸術活動活性化協議会」「文化芸術活性化パートナーシップ事業」「アウトリーチ活動」などを引き続き実施し、文化芸術活動団体、行政、学校関係、地元の各団体等とのネットワークを強化し、文化芸術活動の育成や支援と情報受発信、地域イベントへの積極的な関与など地域との関わりを深め、地域の文化芸術の振興に努めてまいります。

１　地域文化芸術活動活性化協議会の開催

各地域文化会館を拠点に活動しているパートナーシップ団体、行政、教育機関など、それぞれの代表者で構成された「地域文化芸術活動活性化協議会」を各地域文化会館に設置し、地域ネットワークの構築、文化芸術の情報提供、アウトリーチ事業の開催協力、施設運営への意見交換などを引き続き行ってまいります。地域に根差した意見を吸収できる環境を整え、協議会の持つネットワークを活用し、文化芸術活動・情報の受発信、事業の協働開催など、文化芸術の活動拠点として、より一層、地域に寄り添い活性化を図るとともに、魅力ある地域づくりに貢献してまいります。

２　地域文化会館の重点的な取組

地域文化会館では、以下の５つの視点を重視した文化事業を実施します。

①　文化芸術活性化パートナーシップ事業
②　地域における文化芸術普及事業
③　地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
④　住民の文化芸術活動への支援型事業
⑤　施設間の交流事業

（１）文化芸術活性化パートナーシップ事業

京都市から委託を受けて取り組んできた「フランチャイズ（活動拠点）化事業」を、平成２３年度から「文化芸術活性化パートナーシップ事業」と名称変更し、財団の自主事業として実施しています。本事業では、文化会館が地域の文化芸術の拠点であることを意識した鑑賞型の「無料公演」と、地域の子どもたちを対象とした「教育プログラム」の実施のほか、新たに１８歳以上を対象とした「おとなプログラム」や、引き続き「アウトリーチ活動」にも積極的に取り組みます。また、地域の教育機関や福祉施設と連携し、文化芸術の社会包摂機能の更なる活用や、地元の文化芸術団体と連携した文化芸術活動の活性化やネットワークの強化と拡大を図ってまいります。

（参考）令和７年度パートナー団体

文化会館名	パートナー団体
東部文化会館	京都橘大学吹奏楽部
呉竹文化センター	京・伏見音楽サークル和音
西文化会館ウエスティ	特定非営利活動法人京都フィルハーモニー室内合奏団
北文化会館	合唱団「葡萄の樹」
右京ふれあい文化会館	吹奏楽団「雅」

（２）地域における文化芸術普及事業

ア　音楽芸術文化の紹介

広く市民に音楽芸術を紹介し、地域の文化芸術の振興を目的とした公演を開催します。北文化会館では、昨年度に引き続きジャズに注目し、日本を舞台に活躍するプロの演奏家による公演「青木カレンwith ジェイコブ・コーラー　プレミアムJAZZライブ」を開催します。

イ　伝統的芸術文化の紹介

伝統音楽・伝統芸能を文化会館が広く市民に紹介し、理解と支援、継承の機運形成の一助とすることを目的とした公演やワークショップを開催します。呉竹文化センターではプロの噺家による質の高い伝統話芸「くれたけ納涼寄席（仮称)」、西文化会館ウエスティではわかりやすい解説とワークショップを交えた「伝統芸能「狂言鑑賞会」(仮称)」、右京ふれあい文化会館では小学生を対象とした雅楽体験会＜伝統芸能シリーズ＞「みんなワクワク！雅楽の世界へ（仮称)」をそれぞれ開催します。

ウ　アウトリーチ事業

地域文化会館５館で、市民の文化芸術活動の活性化や地域の文化芸術の振興を目的として、地域文化会館に登録している協力団体（文化芸術活動団体）が地域の各団体、学校、福祉施設などからの依頼により、ミニコンサートやワークショップ等を行う「アウトリーチ事業」に積極的に取り組みます。

（３）地域の文化芸術活動を担う人材育成事業

ア　地域の教育機関との連携

京都市立芸術大学と連携した「ウエスティ音暦（おとごよみ)」（２公演）を西文化会館ウエスティで、また、「京都市立芸術大学 文化会館コンサート」を北文化会館で開催し、才能ある若い世代の活動を支援します。また、東部文化会館では、京都橘大学と連携し、文化芸術の振興に寄与する人材の育成を目的とした「文化芸術による地域貢献プロジェクト」を引き続き実施します。

イ　子どもを対象とした体験型事業

次世代の文化芸術活動を担う子どもたちが、多様な芸術表現や劇場に触れ豊かな感性と創造性を身につけるための事業として、東部文化会館で「子どもたちのためのアート×デザイン～アルファベット＆数字のモンスターをつくろう～」を、呉竹文化センター・西文化会館ウエスティ・右京ふれあい文化会館の３館で、劇場・舞台の裏側を体験し学ぶことができるバックステージツアーをそれぞれで実施します。

（４）住民の文化芸術活動への支援型事業

ア　市民参加型事業（活動団体の支援）

市民の誰もが文化芸術活動に参加し自己表現することに感動できる事業として、「市民創造ステージ」を呉竹文化センターと北文化会館で開催します。

また、東部文化会館では、地域との連携・協働による参加型事業として、地域のコーラスサークルによる発表や交流の場とする「第２０回コーラス・フェスティバル in 山科・醍醐」を開催します。

イ　地域と連携しアーティストのパフォーマンスを支援

西文化会館ウエスティでは地域ネットワークを活用し、地元で活動している文化芸術活動団体にパフォーマンスの場を提供し、地域への活動情報の発信などを通じてアーティストの技術・芸術性向上への支援を行う「ウエスティ・パフォーマンス広場」を開催します。

ウ　地域における文化芸術の普及を支援

右京ふれあい文化会館では、右京区の太秦に映画撮影所があることから、「京都・太秦キネマのまち」と題して、キネマの町に因んだ、世紀の名優の映画や日本を代表する映画監督作品をそれぞれで４作品上映します。

エ　創作文化の作品展示

賑わいスペースの創出として、東部文化会館では「ギャラリーエコム」、呉竹文化センターでは「くれたけミニギャラリー」、西文化会館ウエスティでは「ウエスティ ギャラリー」、北文化会館では「KITABUNミニギャラリー」、右京ふれあい文化会館では「右京ふれあいミニギャラリー」を通年で開催します。

オ　舞台芸術活動なんでも相談会

市民の舞台芸術の芸術性や創造性を高めるため、公演やコンサートでの照明・音響演出、舞台運営方法など舞台づくりに関する相談について、専門性豊かな技術担当者が提案やアドバイスを行います。

（５）施設間の交流事業

ア　鑑賞型事業の実施

市民が京都市交響楽団を通じて、気軽にクラシック音楽を楽しめるように、京都市交響楽団のメンバーによるクラシック音楽のコンサート「ちょっと素敵な朝からクラシック」を、呉竹文化センターにおいて２公演を開催します。

また、京都市交響楽団と連携し、文化会館５館において低料金で０才から入場できる「ＺＥＲＯ歳からのみんなのコンサート」の開催や、市民が生演奏に触れ、気軽にクラシック音楽に親しむ機会を提供するアンサンブルコンサートを開催します。

イ　未就学児向けの公演の実施

地域文化会館５館とロームシアター京都との連携事業として、劇場に初めて訪れる「シアターデビュー」を楽しい体験にし、より多くの人たちが劇場に足を運ぶことができる環境づくりと、子どもを対象とした良質な舞台作品を生み出すこと、作品作りに関心を持つアーティストやスタッフを増やすことを目的に、各館で公演を実施します。海外から招聘した作品上演やワークショップの開催など、子どもたちの創造性を豊かにするとともに、音楽を身近に感じる作品上演を実施します。

ウ　京都市ジュニアオーケストラの活動支援

京都コンサートホールとの連携事業で京都市交響楽団が指導する「京都市ジュニアオーケストラ」については、音楽活動を充実させるため、練習会場として各地域文化会館を活用するとともに、活動内容の情報を発信するなど、若いオーケストラを支える環境づくりを行います。

また、右京ふれあい文化会館では、「京都市ジュニアオーケストラ　ミュージック・サマー・コンサート」を開催します。

エ　京響コーラスの活動支援

京響コーラスの練習会場として文化会館での利用支援や練習公開を実施することで、京響コーラスのレベルアップと地域の文化振興を図ります。

（参考）文化会館における事業・公演数の変遷

年　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)	令和7年度 (計画)
事業数	55事業	53事業	45事業	41事業	45事業
公演数	69公演	59公演	55公演	51公演	57公演
講座数	6講座	7講座	5講座	5講座	10講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和３年度はうち１２事業１８公演２講座、令和４年度はうち１事業２公演、令和５年度はうち３事業３公演を中止

Ⅱ　受託事業

１　指定管理者業務

地域文化会館の指定管理者として、地域の皆様に文化芸術を核にした「豊かなくらしの実感」を提供するとともに、地域の多彩な文化的活動の拠点としての機能を発揮し、更なる利用の促進を図ります。

２　施設管理の目標

施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保にも努めます。令和６年度の施設利用料金収入等の目標については「コロナ以前」となる平成３０年度実績に利用料金改定による増収を勘案し設定しました。

目標１　利用料金収入額　（単位：千円）

施　設	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
東部文化会館	33,427	30,756	15,722	23,808	29,019	27,458
呉竹文化センター	40,623	37,665	22,385	32,059	40,093	43,028
西文化会館ウエスティ	33,867	31,099	16,172	25,071	29,516	27,746
北文化会館	40,807	38,126	19,759	29,320	37,013	38,345
右京ふれあい文化会館	36,725	33,631	20,417	29,513	35,827	38,731

目標２　日数利用率　（単位：%）

施　設	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
東部文化会館	64	64	36	59	59	55
呉竹文化センター	75	74	42	67	74	79
西文化会館ウエスティ	62	60	41	63	61	55
北文化会館	80	77	39	67	77	75
右京ふれあい文化会館	76	69	46	63	71	64

以上、各施設の規模、立地条件、地域との連携等を活かした事業を企画し、各種文化芸術活動団体、教育機関、京都市交響楽団との連携をより一層深めながら、文化芸術の振興・発展を目指すとともに、サンキューレターの活用による利用者のリピート率向上を図り、これまで以上に集客及び増収に取り組んでまいります。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上委員会（CS委員会）の推進【再掲】

京都コンサートホール（７ページ）参照

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置【再掲】

京都コンサートホール（７ページ）参照

４　集客のための取組

（１）地域文化会館割引制度

地域文化会館の平日のホール利用の促進や、追加利用に対するサービス向上を図るため、引き続き平日直前利用割引制度と平日連続区分利用割引制度を実施します。

（参考）地域文化会館割引制度利用数　　（単位：件）

平日直前利用割引	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)
東部文化会館	9	7
呉竹文化センター	0	6
西文化会館ウエスティ	1	2
北文化会館	6	3
右京ふれあい文化会館	6	9
計	22	27

平日連続区分利用割引	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)
東部文化会館	30	45
呉竹文化センター	79	72
西文化会館ウエスティ	64	24
北文化会館	99	75
右京ふれあい文化会館	54	66
計	326	282

■　ロームシアター京都

令和７年度に、ロームシアター京都はリニューアルから１０周年を迎えます。１０月下旬から令和８年１２月までを１０周年期間とし、さまざまな記念事業及び連携事業を実施します。１０周年事業のテーマは、「つづきのはじまりはじまり」。ロームシアター京都の新たな挑戦の幕開けです。また、記念のビジュアルは、イラストレーション、絵本などの分野で活動するユニットtupera tupera（ツペラ ツペラ）が手掛けます。

Ⅰ　主催・共催事業〔３８事業８１公演７講座〕

世界水準の優れた作品をお届けするとともに、作品と社会の関係や、作品を創造し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、今日における劇場の果たすべき役割を見出していきます。この目的を果たすため、自ら舞台芸術作品を企画・制作するシリーズ、他の劇場・芸術団体と共同で新作を制作するシリーズを発展させ、その作品の背景や見どころについての理解を促し、鑑賞の手引きとなるウェブマガジンやパンフレット、ワークショップの関連企画を充実させます。さらに、地域文化会館や東山青少年活動センター、京都芸術センターなど、他の文化施設と連携し、京都における文化芸術のハブとしての機能を高めるための事業を実施します。『つながり（交流）』を全事業の包含する要素として位置づけ、『つくり（創造）』、『育て（育成）』、『活かす（生活）』有機的なサイクルを作り上げます。

１　交流事業

ロームシアター京都１０周年記念事業として、世界が注目するプログラムを１１月から１２月にかけて３つ行います。まずは、平成２８年にロームシアター京都で初演をおこなった『VESSEL』の成功以来、共作を続けている振付家のダミアン・ジャレと美術家の名和晃平による『PLANET [wanderer]』を上演します。次に、ダンスと演劇が共生する<タンツテアター>の手法で、２０世紀の舞台芸術シーンに衝撃を与えたピナ・バウシュ（平成１９年京都賞受賞、平成２１（２００９年）逝去）の振付作品『Sweet Mambo』、続けて台湾を代表するコンテンポラリー・ダンスカンパニー、クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）鄭宗龍と日本のアーティスト、真鍋大度によるコラボレーションで、最先端の技術とダンスの融合をめざした『WAVES』を、京都の観客に紹介します。世界水準の演目によって、「文化の殿堂」としての存在感を発揮し、海外との交流の促進を図ります。

２　創造事業

劇場の財産となる作品をプロデュースするシリーズ「レパートリーの創造」では、令和６年度から３箇年企画「レパートリーの創造 ホープス」の２年目として、京都を拠点に活動するふたりの若手演出家 野村眞人・西田悠哉の旧作・新作リクリエーションを行います。そして、令和６年度につづき全国共同制作オペラに参画し、歌劇『愛の妙薬』を全国の３つの公

共劇場、３つのオーケストラとの共同制作で実現します。演出は学生時代を京都で過ごすなど京都にゆかりのある杉原邦生です。このほか、音楽シリーズSound Aroundや、継承と創造シリーズ「三番叟づくし」（１０周年記念事業)、「饗宴！5台のピアノと5人のピアニスト(仮)」（１０周年記念事業)、レパートリー作品のヨーロッパ公演など、ロームシアター京都を創造の場として機能させ、ここから新たな舞台芸術を誕生させてまいります。

３　育成事業

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 京都公演『魔笛』」、京都芸術センターとの連携事業「Ｕ３５創造支援プログラムKIPPU」を実施することで、交流や育成の場としての機能を大いに果たしてまいります。令和元年度にスタートさせた、１０代を対象とした人材育成事業「劇場の学校」も継続します。

４　生活事業

多彩なライフスタイルを享受する「生活事業」として、「プレイ！シアター in Summer」、「OKAZAKI PARK STAGE」、「プレイ！シアター for the 10th anniversary」など、ホールを飛び出して行う幅広い事業で、ロームシアター京都ならではの「劇場文化」を醸成してまいります。

５　賑わいスペース事業

パークプラザには、飲食をしながら読書などができるブック＆カフェや、催物前後の語らいを楽しむことのできるレストラン等があり、また、岡崎公園ともつながるローム・スクエアやロビー等では、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示等を通じて子どもから大人まで楽しめる空間が広がっており、様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶサイクルが生まれています。

ロームシアター京都が舞台芸術にとどまらず、多くの方の交流の場となり、岡崎エリアの賑わいの一翼を担っていくために、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、ホールでの催物に加えて日常的にさまざまなサービスやイベントを展開していきます。

（参考）賑わいスペースを活用した事業内容等

事業内容	店舗名称	営業時間※
ブック&カフェ (パークプラザ１階)	京都岡崎 蔦屋書店	午前１０時から午後８時
	スターバックスコーヒー	午前８時から午後１０時
レストラン (パークプラザ２階)	京都モダンテラス	午前１１時から午後１０時
キオスク※ (サウスホール１階ホワイエ内)	ファミリーマート	午前８時から午後８時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ３階共通ロビー)	BOOK&ART GALLERIA	午前１０時から午後５時※ (開館時間等に応じて変更)

※キオスクの販売形態が変更される可能性あり。

※臨時休館等により変更の場合あり。

６　ミュージックサロン事業

音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」(パークプラザ３階）を、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションと共同運営します。

「ミュージックサロン」は、①音楽その他文化芸術に関する資料の展示、②セミナー、講演会、コンサート等の文化芸術イベントを開催する施設として運営しています。ロームシアター京都でのオペラ公演に関連する特別展示等を開催してまいります。

（参考）ロームシアター京都における事業・公演数の変遷

年　度	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 (見込)	令和7年度 (計画)
事業数	32事業	38事業	43事業	36事業	38事業
公演数	83公演	117公演	117公演	71公演	81公演
講座数	7講座	18講座	14講座	8講座	7講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和３年度は６事業１５公演、令和４年度は１事業１公演を中止及び次年度以降延期。

Ⅱ　受託事業

１　指定管理業務

各施設の特性を活かした施設利用が行われるよう、充実した設備や立地、また施設としての知名度を活かした集客の可能性や実績等により、従前の利用者にもこれまで通り利用していただきながら、MICEなども含めた新たな利用の促進も引き続き図ってまいります。

また、的確な利用調整や各種指標に基づく施設管理等による効率的で効果的な施設運営を行い、あわせて利用料金収入の確保に努めます。

２　施設管理の目標

ロームシアター京都中間評価委員会からの助言を踏まえ、令和４年度に「ロームシアター京都（京都会館）の中間評価及び後半４年間の事業計画書等」を策定し目標を設定しています。令和７年度の施設利用料金収入額等の目標については、「コロナ以前」となる平成３０年度利用実績に利用料金改定による増収を勘案し目標を設定しました。

（１）施設利用促進に向けた営業活動

各施設の特性やこれまでの実績等を踏まえ、本格的な総合舞台芸術公演等を積極的に誘致するとともに、市民の文化活動の発表の場として各施設の特性が最大限発揮されるような利用を促進していきます。また、利用者への各種サポート等により利便性の向上に努め、繰り返しロームシアター京都を利用していただけるよう努めてまいります。

（２）MICE誘致に向けた関係機関との定期的な協議

多彩な文化・交流施設が集積し、国の「重要文化的景観」にも選定された岡崎エリアにおいて、より質の高いMICEの開催が可能となることを積極的にPRするとともに、MICE等の誘致・対応に向けて、京都市及び京都文化交流コンベンションビューロー、みやこめっせ、京都市京セラ美術館等との情報連携を強化し、様々なニーズに応えていきます。

目標１　利用料金収入額　（単位：千円）

区　分	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
ホール等利用料金	379,994	333,812	136,254	274,933	343,413	339,363

目標２　入場者数　（単位：名）

区　分	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入場者数	500,000	497,784	76,076	210,564	332,861	352,568

目標３　日数利用率　（単位：%）

施　設	令和7年度目標	平成30年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
メインホール	81	81	49	63	82	77
サウスホール	80	80	46	63	73	79
ノースホール	72	72	59	67	78	78

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。
○関西圏・首都圏の主要プロモーター・プロダクションや、京都府・京都市内の教育機関、文化団体への営業活動等を実施します。
○メールマガジン（令和６年度運用開始）において、最新の施設空き状況のほか、貸館利用における各種情報を配信します。
○ノースホールについては、オーケストラ、吹奏楽、合唱等の練習・リハーサル会場として、通常利用料金より安価にご利用いただける制度を継続し、練習から本番への利用に結び付けていきます。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上会議（CS会議）等の推進

利用者・来場者の安心・安全を確保し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上のため、職員や委託業者が参加するCS（顧客満足度向上）会議等を開催し、利用ニーズの把握、要望の検証等を行い、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」の設置【再掲】

京都コンサートホール（７ページ）参照

（３）賑わいスペース事業者定期連絡会の開催

賑わいスペース事業における各店舗の責任者等との定期的な連絡会を開催し、日常的な施設運営に係る様々な情報共有を確実に行うことで、施設全体として円滑な連携のもと、サービスの向上に努めます。

（４）施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後の実際の運用により把握してきた施設や各種機器の特性などを踏まえ、光熱水費の抑制にも取り組みながら利用状況や季節変動等に応じた日常の設備運用や保守点検、備品管理などを工夫し、利用者への情報提供等を行うことで、より的確で効率的な施設運営に努めます。また、職員等の業務内容や体制面での整備も進めるとともに、従前から進めている各種マニュアルの更新や場内サービス業務等の研修、施

設全体に係る防災訓練等を、引き続き実施することで、安心・安全で快適な劇場空間を提供してまいります。

開館９年を経て、施設・設備も補修や修繕が必要となり始めていることから、計画的かつ、効率的な修繕の実施、また、今後の修繕計画の策定に取り組みます。

４　広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

催物カレンダーや事業ラインアップの発行、ホームページやSNSの運用、貸館の広報、会員制度の運用及び事業実施等にあわせた話題づくり等により、効果的な広報・宣伝を展開し、ロームシアター京都への期待感を引き続き高めていくとともに、劇場の認知度をさらに向上させることで来館や貸館利用の促進に努めます。

また、京都コンサートホールと共通のチケット販売システムの運用を行い、市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

（１）自主事業ラインアップの発行

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するためのリーフレットを発行し、ロームシアター京都のビジョンを提示することで、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得等にもつなげていきます。

（２）催物カレンダーの発行（毎月）

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のほか、ロームシアター京都で開催される最新の催物情報を掲載した「ロームシアター京都 イベントカレンダー」を毎月発行し、集客やチケットの販売促進につなげます。

（３）ホームページ等の充実

ホームページについては、平成２７年度に開設し、アクセスの分析等を踏まえた掲載情報の更新、閲覧や掲載作業に係るシステムの更新等を重ねてきました。令和３年度に充実させた特設サイトやSNS等のコンテンツを活用するなど、引き続き閲覧しやすく使用しやすいものとなるよう工夫を図ってまいります。

（４）電子チケットの運用【再掲】

京都コンサートホール（８ページ）参照

（５）外部資金の獲得

主催事業の実施にあたっては、文化庁助成、民間助成に加え、民間企業等からの協賛金の獲得に努めます。さらには、賛助会員制度（９ページ　５ 各種会員制度等の運営（２）賛助会員制度の運営 参照）の拡充を図ります。

５　各種会員制度の運営

（１）「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組【再掲】

京都コンサートホール（９ページ）参照

（２）賛助会員制度の運営【再掲】

京都コンサートホール（９ページ）参照

６　施設運営の充実に向けた取組

ロームシアター京都の中長期的なビジョンやミッションに対して助言をいただくことを目的とした「ロームシアター京都運営懇談会」、京都で活動する舞台芸術関係者・団体との繋がりを構築していく事を目的とした「ロームシアター京都舞台芸術懇話会」をそれぞれ開催し、助言や繋がりを生かしながら施設運営の更なる充実を図ります。

７　貸館利用者と連携した１０周年記念事業の取組

リニューアルオープンから１０周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として貸館利用者に向けて「ロームシアター京都１０周年連携事業」を募集し、チラシに連携事業ロゴを掲載いただくなど貸館利用者とも連携して１０周年を盛り上げます。

■　京都市交響楽団

昭和３１年（１９５６年）に全国唯一の自治体直営オーケストラとして発足した京都市交響楽団は、多くの市民に支えられながら、日々演奏力に磨きをかけ、最良の音楽を届けることに邁進してきました。その活動を通じて、文化的な市民生活に寄与するとともに、日本屈指のオーケストラとして評価されるまでに、成長・発展を遂げてきました。

令和７年度は、「王道！斬新！」をテーマに掲げ、第１４代常任指揮者の沖澤のどかと、首席客演指揮者のヤン・ヴィレム・デ・フリーントとの共同創造のもと、「王道」作品を「斬新」な視点で取り上げます。「王道」と「斬新」の絶妙な融合により、京響ならではの独自性を発揮し、更なる飛躍を目指します。

また、京都市交響楽団は、令和８年（２０２６年）に創立７０周年の節目を迎えます。周年事業は、令和７年度から令和９年度までの３箇年計画で実施し、長年支えてくださった市民の皆様への感謝を形にするとともに、同時に新たなファン層の開拓を進めます。さらに、活動拠点である京都コンサートホールを中心に、京響の演奏を通じて音楽芸術の普及向上を図る多角的な取り組みを展開します。

プレ７０周年となる令和７年度は、常任指揮者の沖澤と共に東日本５箇所（東京、福井、長野、八戸、青森）を巡る国内ツアーを実施するとともに、令和８年３月定期演奏会（第709回）では、名作オペラを堪能できるオペラコンチェルタンテ「コジ・ファン・トゥッテ」を披露します。

また、定期演奏会のホール練習の機会を増やすことで、演奏技術の向上を図るとともに、市民の皆様に京都市交響楽団をより身近に感じていただくため、京都コンサートホールでのリハーサルの一部を公開します。誰もが京都市交響楽団を応援したくなるような魅力ある活動を展開し、多くの人々に愛されるオーケストラを築いてまいります。

今後も引き続き、京都市交響楽団ビジョンに基づき、これまで培ってきた財産を継承しつつ、新たな時代を見据えて果たすべき役割を自覚し、更なる発展を目指してまいります。

Ⅰ　主催・共催事業〔２４事業４８公演〕

１　定期演奏会

常任指揮者の沖澤のどか、首席客演指揮者のヤン・ヴィレム・デ・フリーントに加え、巨匠から実力派、新進気鋭の若手まで幅広く、世界で活躍する指揮者やソリストを招き、古典から近・現代までの魅力あふれる楽曲を数多く揃え、芸術性の高い、充実した演奏を提供してまいります。

また、従来のフライデー・ナイト・スペシャルを改め、２日公演開催月の金曜公演（７公演）のプログラムを土曜公演と同一プログラムとし、また開演時間についても午後７時３０分から午後７時に見直しを図り、さらなる聴衆拡大を図ります。

２　特別演奏会

恒例のスプリングコンサート、第九コンサート及びニューイヤーコンサートを開催し、充実した出演者と心躍る楽曲により、時節を彩る演奏をお届けします。

３　特別演奏会（市外公演）

第１４代常任指揮者である沖澤のどか指揮のもと、東京公演のほか、大阪及び名古屋で特別演奏会を開催し、日本屈指の演奏力と評される京響の知名度や評価の全国区での更なる浸透を目指します。

４　オーケストラ・ディスカバリー

テーマを「発見！メモリアルイヤーの作曲家」とし、名曲の演奏と楽しいトークでオーケストラやクラシック音楽の魅力を紹介する青少年のための演奏会をロームシアター京都で開催します。

青少年の情操の向上や健全な心の育成とともに、若い世代へのオーケストラの振興と普及を図ります。年４回のシリーズ券を設定し、定期演奏会の会員への導入コンサートとしても位置付けています。

５　ＺＥＲＯ歳からのみんなのコンサート

地域文化会館を会場に低料金で入場できる演奏会を開催し、日頃クラシック音楽に接する機会の少ない市民の皆様にも身近で生の演奏に接する機会を提供し、地域密着型のオーケストラとしてクラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。対象年齢を０歳からに統一したコンサートとしており、御家族そろってオーケストラの魅力をお楽しみいただきます。

６　地域文化会館との連携事業等

地域文化会館が実施するアウトリーチ事業に協働で取り組み、地域の文化芸術の振興を図ります。

７　共催事業

京都市の小・中学生を対象とした音楽鑑賞教室を開催し、クラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、若年層の京響ファンの獲得を図ります。

８　その他事業

京都市ジュニアオーケストラへの演奏指導、中学生や高校生を対象とした楽器講習会、京響コーラスの運営など、京都に根差した音楽活動を通して、京響を市民に身近に感じていただく活動や将来の音楽文化の担い手の育成などにも取り組みます。また、これまで音楽に接する機会の少ない子どもたちや、京響やクラシック音楽に馴染のなかった方々など、より多

くの方に音楽に触れる機会を提供し、京響の魅力を更に伝えるため、教育機関との連携や、学校・病院・福祉施設、市役所等でのコンサート、リクエストコンサートなどのアウトリーチ活動を積極的に展開してまいります。

９　７０周年事業（プレ７０周年）

令和８年度に創立７０周年を迎える記念事業については､｢市民と共にあるオーケストラ｣、｢京都の音楽芸術文化をつくるオーケストラ｣､｢ワールドクラスのオーケストラ｣の３つの柱を掲げ、令和７年度から９年度までの計３箇年事業として実施します。

プレシーズンとなる来年度は、沖澤と共に東日本５箇所を巡る国内ツアーを実施します。また、令和８年３月定期演奏会（第709回）では、オペラコンチェルタンテ「コジ・ファン・トゥッテ」を披露するなど、更なる音楽の感動と共に、多くの皆様にご満足いただけるプログラムを提供してまいります。

＜参考：Ｒ７年度国内ツアー＞

公演日	公演名	ホール名
9/23（火・祝）	東京公演	サントリーホール
9/24（水）	福井公演	ハーモニーホールふくい
9/25（木）	長野公演	長野市芸術館
9/27（土）	八戸公演	八戸市公会堂
9/28（日）	青森公演	リンクステーションホール青森

１０　公演料金の改定

将来にわたり演奏のクオリティを向上・保持するとともに、持続可能で安定的な運営を確保するため、公演料金を改定します（定期演奏会、特別演奏会（第九、ニューイヤー））。併せて京響友の会割引率の引上げや新たな割引チケット（金曜ペアチケット、Ｕ３０）の導入等メニューの充実を図ってまいります。

	プレミア	Ｓ席	Ａ席	Ｂ席	Ｃ席	Ｐ席
旧	6,500円	5,500円	5,000円	4,000円	3,000円	2,000円
新	7,000円	6,000円	5,500円	4,500円	3,500円	3,000円

※　プレミア席は友の会固定の席となりますので、1回券での販売は行いません。

※　オーケストラ・ディスカバリー、みんなのコンサート、スプリング・コンサートの公演料金に変更はありません。

Ⅱ　京響友の会

令和７年度については、フライデー・ナイト・スペシャルの見直しに伴い、定期会員を再編（土曜・金曜）するとともに、特別会員を含む通年会員の割引率を引き上げます（２０％→２５％)。４枚分のチケットを自由にカスタマイズできるセレクト・セット会員は継続します。法人会員につきましても、前年同様チケット会員に加え、スポンサー会員制度と寄付会員制度を御用意し、今後も京響が世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードし、音楽を通じた京都のひと・まちづくりを進めていくための支援・協力を求めてまいります。

Ⅲ　受託事業

依頼に応じて、京都市内の演奏会に加え、京都府下（綾部市）や、滋賀県（大津市)、大阪府（大阪市)、兵庫県（西宮市)、広島県（福山市)、福井県（福井市)、長野県（長野市)、青森県（八戸市、青森市）など市外の演奏会にも出演するとともに、引き続き、関係団体・企業等へ働きかけ、更なる演奏活動を展開してまいります。

Ⅳ　タイトル・体制

令和７年度から、現在、「特別客演コンサートマスター」である石田泰尚と会田莉凡の冠名を「ソロコンサートマスター」に名称変更いたします。また、若手でありながら才能あふれるチェリストとして国内外で注目されている森田啓介を新たに「特別首席チェロ奏者」として迎え入れます。これにより、ベテランから若手まで広くバランスを保ちつつ、オーケストラの演奏力を強化し、さらに多くの音楽ファンに素晴らしい演奏を届けてまいります。

令和６年度		令和７年度	
		ソロコンサートマスター	石田　泰尚
			会田　莉凡
コンサートマスター	泉原　隆志	コンサートマスター	泉原　隆志
特別客演コンサートマスター	石田　泰尚		
	会田　莉凡		
特別名誉友情コンサートマスター	豊嶋　泰嗣	特別名誉友情コンサートマスター	豊嶋　泰嗣
ソロ首席ヴィオラ奏者	店村　眞積	ソロ首席ヴィオラ奏者	店村　眞積
ソロ首席チェロ奏者	上村　　昇	ソロ首席チェロ奏者	上村　　昇
特別首席チェロ奏者	山本　裕康	特別首席チェロ奏者	山本　裕康
			森田　啓介
アシスタントコンサートマスター	尾﨑　　平	アシスタントコンサートマスター	尾﨑　　平

※　下線が変更箇所

※　石田泰尚・会田莉凡が「特別客演コンサートマスター」から「ソロコンサートマスター」に、森田啓介が新たに「特別首席チェロ奏者」として加入します。

■　その他

Ⅰ　組織人員体制・配置等の最適化

令和７年度についても、業務効率や生産性の向上に取り組みつつ、適正な人員体制の確保に努めます。これまで蓄積してきた専門知識・ノウハウを継承し、キャリアの浅い職員からベテランまで､各職員の能力を十分に発揮･伸張させることで組織の活力の向上を図ります。

また、平成２８年度から運用してきた人事制度については、導入から数年が経過していることから、これまでの制度上における課題の見直しを行うなど、再構築に着手します。

さらに、中長期的な人員配置の方向性について改めて分析を行い、適切な人員の確保に努めます。

Ⅱ　働きやすい職場づくりの推進

どのような雇用形態の職員にとっても働きやすい職場環境づくりに引き続き努めるとともに、職員の意欲・能力を適切に評価し、積極的な登用を行ってまいります。

また、令和７年度についても引き続き、年次有給休暇の取得の推進や時間外労働の抑制の推進を行うとともに状況に合わせ、柔軟に新しい働き方を検討してまいります。

Ⅲ　人材育成・職員研修

職員一人ひとりが、常に知識、意欲、技術の向上を図ることで、利用者により一層好感度を高めていただくとともに、社会的要請や環境変化に対応して、より自立的・安定的な組織運営力を発揮していくために必要な研修を実施してまいります。

また、幅広い知識・課題解決力の向上等、更なるスキルアップを図ることを目的として、民間企業等が実施する研修への参加を推進し、次世代のリーダーを育成してまいります。

Ⅳ　環境への配慮

当財団は、平成２０年のＫＥＳ（京都市環境マネジメントシステム・スタンダード）認証の取得以後、毎年再認証を取得しています。

令和７年度も、職員全員が環境マネジメント活動を推進し、地球環境との調和を目指し、積極的な節電対策など環境に配慮した会館運営を行います。

また、リサイクル促進について、利用者から発生する缶・ビン・ペットボトルなど、ゴミの分別廃棄を徹底するとともに、業務上発生する印刷書類等裏側の再利用やリサイクル紙の購入等をはじめとするグリーン調達を行います。

設備・備品調達や外部委託発注においても、グリーン調達及び委託業者の環境配慮動向を見極めた発注を行うように努めます。

さらに、エネルギー削減を行うため、会館内の適正冷暖房の設定及び不必要な電灯の消灯等の取組を徹底してまいります。

Ⅴ　ファンドレイジング及びＩＣＴ環境整備による財務の合理化の推進

より安定的な財源の確保を目指して、公的、民間を問わず外部資金の獲得の強化に努めます。また、ＩＣＴの活用により、顧客サービスの向上と事務作業の負担軽減の両立を目指し、財務の合理化を引き続き、推進してまいります。

Ⅵ 「中期経営計画2025」及び「京都市交響楽団ビジョン」の進捗管理

令和３年度末に策定した「中期経営計画２０２５」及び令和元年度に策定した「京響ビジョン」の５つの戦略の推進に関し、それぞれ掲げる目標について財団全体で進捗管理を行い、目標の達成に向けて引き続き、取り組んでまいります。

また、現行の「中期経営計画２０２５」の計画期間が令和７年度までであることから、様々な環境の変化に対応して、財団の使命を果たし、存在価値を高めることを目的として、令和７年度中に新たに令和８年度から１１年度を計画期間とする「中期経営計画２０２９（仮）」を策定します。

『収益事業』

Ⅰ　公益目的外の施設提供事業

１　駐車場経営

指定管理業務として、主に来館者向け駐車場として運営してまいります。

駐車場目標収入額

施　設	令和5年度実績	目標駐車場収入額
京都コンサートホール	15,776,010円	18,289,000円
東部文化会館	3,435,700円	4,029,000円
西文化会館ウエスティ	4,931,300円	5,096,000円
右京ふれあい文化会館	5,429,700円	4,366,000円
計	29,572,710円	31,780,000円

２　オリジナルグッズ等販売

京都コンサートホールオリジナルグッズや京響オリジナルグッズ等を販売してまいります。

オリジナルグッズ等目標収入額

項　目	令和5年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	479,546円	400,000円
ロームシアター京都	25,200円	750,000円
京都市交響楽団	1,421,308円	1,500,000円
計	1,946,994円	2,650,000円

３　プレイガイドの運営

主催者から、入場券の作成業務及び入場券の販売業務を受託し、それぞれのプレイガイドで販売します。

入場券販売業務受託収入の目標収入額

施　設	令和5年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	17,252,943円	16,000,000円
地域文化会館	72,450円	103,000円
ロームシアター京都	8,556,292円	10,000,000円
計	25,881,685円	26,103,000円

令和７年度

収支（正味財産増減）予算

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和７年度収支（正味財産増減）予算書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
１．経常増減の部				
⑴経常収益				
①基本財産運用益	355	355	0	
1 基本財産運用益	355	355	0	
基本財産受取利息等	355	355	0	
②特定資産運用益	1,300	800	500	
1 特定資産運用益	1,300	800	500	
特定資産受取利息等	1,300	800	500	
③事業収益	2,296,016	2,140,685	155,331	
1 自主・共催事業収益	607,751	504,304	103,447	
入場料収益	258,406	184,835	73,571	
参加料収益	2,741	3,133	△ 392	
友の会会費	71,212	52,498	18,714	
京響コーラス会費	2,700	2,700	0	
広告料収益	44,585	23,635	20,950	
共催事業収益	32,703	42,681	△ 9,978	
助成金収益	190,084	192,122	△ 2,038	
物品販売等収益	4,320	1,700	2,620	
著作隣接権等収益	1,000	1,000	0	
2 事業受託収益	231,322	184,104	47,218	
事業受託収益	231,322	184,104	47,218	
3 管理受託収益	759,965	751,825	8,140	
管理受託収益	759,965	751,825	8,140	
4 利用料収益	657,477	658,511	△ 1,034	
ホール利用料金収益	625,697	626,731	△ 1,034	
駐車場利用料金収益	31,780	31,780	0	
5 その他事業収益	39,501	41,941	△ 2,440	
企画・演出手数料等収益	12,200	12,200	0	
賑わい事業収益	19,850	19,850	0	
プレイガイド事務手数料収益	7,451	9,891	△ 2,440	
④受取補助金等	924,000	890,000	34,000	
1 受取地方公共団体補助金	924,000	890,000	34,000	
京都市補助金	924,000	890,000	34,000	
⑤受取寄付金	7,512	7,112	400	
1 受取寄付金	7,512	7,112	400	
寄付金収益	7,512	7,112	400	
⑥雑収益	13,737	13,135	602	
1 雑収益	13,737	13,135	602	
受取利息等	1	1	0	
管理手数料等収益	12,945	12,945	0	
雑収益	791	189	602	
経常収益合計	3,242,920	3,052,087	190,833	

令和７年度収支（正味財産増減）予算書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
⑵経常費用				
①事業費	3,258,337	3,007,016	251,321	
役員報酬	6,959	7,226	△ 267	
給料手当	1,111,180	1,135,900	△ 24,720	
賞与引当金繰入額	42,860	39,887	2,973	
退職給付費用	20,248	15,519	4,729	
臨時雇賃金	44,855	38,888	5,967	
福利厚生費	196,995	191,811	5,184	
会議費	25	25	0	
旅費交通費	63,891	35,610	28,281	
通信運搬費	35,009	25,732	9,277	
減価償却費	20,579	7,016	13,563	
消耗什器備品費	3,035	2,535	500	
消耗品費	43,135	35,643	7,492	
商品費	3,250	900	2,350	
見本費	10	10	0	
修繕費	26,600	26,600	0	
印刷製本費	47,973	43,059	4,914	
広告宣伝費	28,696	24,398	4,298	
光熱水料費	213,300	213,300	0	
賃借料	82,262	69,835	12,427	
保険料	3,091	2,755	336	
諸謝金	5,604	6,127	△ 523	
租税公課	75,121	68,698	6,423	
支払負担金	33,509	53,409	△ 19,900	
チケット購入額	85	85	0	
支援事業助成金	0	500	△ 500	
委託費	1,133,584	950,434	183,150	
接遇交際費	158	108	50	
支払手数料等	11,149	7,141	4,008	
雑費	5,174	3,865	1,309	
②管理費	34,122	35,163	△ 1,041	
役員報酬	4,971	5,161	△ 190	
給料手当	16,076	15,275	801	
賞与引当金繰入額	1,721	2,527	△ 806	
退職給付費用	1,195	1,226	△ 31	
福利厚生費	4,742	4,146	596	
会議費	200	200	0	
旅費交通費	200	200	0	
通信運搬費	100	100	0	
減価償却費	181	158	23	
消耗什器備品費	100	100	0	
消耗品費	500	500	0	
修繕費	50	50	0	

令和７年度収支（正味財産増減）予算書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
印刷製本費	50	50	0	
保険料	300	300	0	
諸謝金	397	397	0	
租税公課	1,329	2,763	△ 1,434	
支払負担金	300	300	0	
委託費	500	500	0	
接遇交際費	50	50	0	
支払手数料等	1,150	1,150	0	
雑費	10	10	0	
経常費用合計	3,292,459	3,042,179	250,280	
当期経常増減額	△ 49,539	9,908	△ 59,447	
２．経常外増減の部				
⑴経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
⑵経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 119,539	7,459	△ 126,998	
一般正味財産期首残高	648,382	640,923	7,459	
一般正味財産期末残高	528,843	648,382	△ 119,539	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	70,000	2,449	67,551	
指定正味財産期首残高	188,759	186,310	2,449	
指定正味財産期末残高	258,759	188,759	70,000	
Ⅲ　正味財産期末残高	787,602	837,141	△ 49,539	

令和７年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
Ⅰ　一般正味財産増減の部							
１．経常増減の部							
⑴経常収益							
①基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
1 基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
基本財産受取利息等	355	0	355	0	0	0	355
②特定資産運用益	1,300	0	1,300	0	0	0	1,300
1 特定資産運用益	1,300	0	1,300	0	0	0	1,300
特定資産受取利息等	1,300	0	1,300	0	0	0	1,300
③事業収益	1,521,256	544,633	2,065,889	454,633	34,122	△ 258,628	2,296,016
1 自主・共催事業収益	330,934	272,497	603,431	4,320	0	0	607,751
入場料収益	135,260	123,146	258,406	0	0	0	258,406
参加料収益	2,741	0	2,741	0	0	0	2,741
友の会会費	7,000	64,212	71,212	0	0	0	71,212
京響コーラス会費	0	2,700	2,700	0	0	0	2,700
広告料収益	44,485	100	44,585	0	0	0	44,585
共催事業収益	17,073	15,630	32,703	0	0	0	32,703
助成金収益	124,375	65,709	190,084	0	0	0	190,084
物品販売等収益	0	0	0	4,320	0	0	4,320
著作隣接権等収益	0	1,000	1,000	0	0	0	1,000
2 事業受託収益	21,250	272,136	293,386	0	0	△ 62,064	231,322
事業受託収益	21,250	272,136	293,386	0	0	△ 62,064	231,322
3 管理受託収益	599,715	0	599,715	126,128	34,122	0	759,965
管理受託収益	599,715	0	599,715	126,128	34,122	0	759,965
4 利用料収益	569,357	0	569,357	266,032	0	△ 177,912	657,477
ホール利用料金収益	569,357	0	569,357	234,252	0	△ 177,912	625,697
駐車場利用料金収益	0	0	0	31,780	0	0	31,780
5 その他事業収益	0	0	0	58,153	0	△ 18,652	39,501
企画・演出手数料等収益	0	0	0	12,200	0	0	12,200
賑わい事業収益	0	0	0	19,850	0	0	19,850
プレイガイド事務手数料収益	0	0	0	26,103	0	△ 18,652	7,451
④受取補助金等	0	914,222	914,222	9,778	0	0	924,000
1 受取地方公共団体補助金	0	914,222	914,222	9,778	0	0	924,000
京都市補助金	0	914,222	914,222	9,778	0	0	924,000
⑤受取寄付金	7,012	500	7,512	0	0	0	7,512
1 受取寄付金	7,012	500	7,512	0	0	0	7,512
寄付金収益	7,012	500	7,512	0	0	0	7,512
⑥雑収益	1	0	1	13,736	0	0	13,737
1 雑収益	1	0	1	13,736	0	0	13,737
受取利息等	1	0	1	0	0	0	1
管理手数料等収益	0	0	0	12,945	0	0	12,945
雑収益	0	0	0	791	0	0	791
経常収益合計	1,529,924	1,459,355	2,989,279	478,147	34,122	△ 258,628	3,242,920

令和７年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
⑵経常費用							
①事業費	1,598,595	1,442,122	3,040,717	476,248	0	△ 258,628	3,258,337
役員報酬	3,977	2,485	6,462	497	0	0	6,959
給料手当	272,886	703,776	976,662	134,518	0	0	1,111,180
賞与引当金繰入額	22,845	9,803	32,648	10,212	0	0	42,860
退職給付費用	12,720	2,692	15,412	4,836	0	0	20,248
臨時雇賃金	5,873	11,121	16,994	27,861	0	0	44,855
福利厚生費	49,047	121,297	170,344	26,651	0	0	196,995
会議費	25	0	25	0	0	0	25
旅費交通費	22,541	41,125	63,666	225	0	0	63,891
通信運搬費	15,853	18,015	33,868	1,141	0	0	35,009
減価償却費	5,139	13,844	18,983	1,596	0	0	20,579
消耗什器備品費	1,809	750	2,559	476	0	0	3,035
消耗品費	20,421	16,305	36,726	6,409	0	0	43,135
商品費	0	0	0	3,250	0	0	3,250
見本費	0	0	0	10	0	0	10
修繕費	19,185	3,000	22,185	4,415	0	0	26,600
印刷製本費	34,131	13,154	47,285	688	0	0	47,973
広告宣伝費	17,576	10,960	28,536	160	0	0	28,696
光熱水料費	156,896	7,000	163,896	49,404	0	0	213,300
賃借料	120,284	131,361	251,645	3,529	0	△ 172,912	82,262
保険料	1,219	1,700	2,919	172	0	0	3,091
諸謝金	2,980	2,110	5,090	514	0	0	5,604
租税公課	43,059	10,520	53,579	21,542	0	0	75,121
支払負担金	2,347	30,800	33,147	362	0	0	33,509
チケット購入額	85	0	85	0	0	0	85
支援事業助成金	5,000	0	5,000	0	0	△ 5,000	0
委託費	758,920	280,224	1,039,144	175,156	0	△ 80,716	1,133,584
接遇交際費	38	100	138	20	0	0	158
支払手数料等	2,615	5,960	8,575	2,574	0	0	11,149
雑費	1,124	4,020	5,144	30	0	0	5,174
②管理費	0	0	0	0	34,122	0	34,122
役員報酬	0	0	0	0	4,971	0	4,971
給料手当	0	0	0	0	16,076	0	16,076
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	1,721	0	1,721
退職給付費用	0	0	0	0	1,195	0	1,195
福利厚生費	0	0	0	0	4,742	0	4,742
会議費	0	0	0	0	200	0	200
旅費交通費	0	0	0	0	200	0	200
通信運搬費	0	0	0	0	100	0	100
減価償却費	0	0	0	0	181	0	181
消耗什器備品費	0	0	0	0	100	0	100
消耗品費	0	0	0	0	500	0	500

令和７年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
修繕費	0	0	0	0	50	0	50
印刷製本費	0	0	0	0	50	0	50
保険料	0	0	0	0	300	0	300
諸謝金	0	0	0	0	397	0	397
租税公課	0	0	0	0	1,329	0	1,329
支払負担金	0	0	0	0	300	0	300
委託費	0	0	0	0	500	0	500
接遇交際費	0	0	0	0	50	0	50
支払手数料等	0	0	0	0	1,150	0	1,150
雑費	0	0	0	0	10	0	10
経常費用合計	1,598,595	1,442,122	3,040,717	476,248	34,122	△ 258,628	3,292,459
当期経常増減額	△ 68,671	17,233	△ 51,438	1,899	0	0	△ 49,539
２．経常外増減の部							
⑴経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
⑵経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 68,671	△ 52,767	△ 121,438	1,899	0	0	△ 119,539
一般正味財産期首残高			640,047	8,335	0	0	648,382
一般正味財産期末残高			518,609	10,234	0	0	528,843
Ⅱ　指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	70,000	70,000	0	0	0	70,000
指定正味財産期首残高			188,759	0	0	0	188,759
指定正味財産期末残高			258,759	0	0	0	258,759
Ⅲ　正味財産期末残高	0	0	777,368	10,234	0	0	787,602